

照葉樹林文化研究会 2010 in 大阪

2010年11月27日に大阪府立大学学術交流会館小ホールにおいて2010年の研究会が開催されました。

研究報告1

山口裕文（東京農業大学）・大野朋子（大阪府立大学）近代化の中でのブータンの花文化（住友財団助成研究）

要旨 住友財団の助成を受けて2010年6月8日から6月13日にブータン国のパロ→ティンプー→プナカ→トンサ→ジャカール→オンディ→ティンプー→パロ間を踏査し、10月5日から10月15日にパロ→ティンプー→ハ→パロ→ティンプー→プナカ→トンサ→クンガ→ジャカール→ウラ→ジャカール→オンディ→ティンプー→パロ間を踏査し、民家の

図1 中尾1958と現在のブータン	
	
チョモラリ1958	チョモラリ2010
	
ドブジ・ゾン1958	ドブジ・ゾン2010

住居や庭園に維持されている観賞植物を調査した。これを2009年5月9日から5月17日のパロ→ティンブー→プナカ→トンサ→ジャカール→オンディ→ティンブー→パロ→チェレラ→パロ間の旅行での観察と併せて、中尾の1958年と1981年のフィールド調査で撮影された画像（大阪府立大学学術情報センター保管）を参照して分析した。1958年には観賞植物はブータンハウスと王宮で数枚のスライドおよびチョモラリゴンパで撮影された仏前のノビレダイオウのみであり、民家では観賞植物も植木鉢も確認されなかった。1981年の中尾スライドには公共的建築物一点と仏前および Cholten での数枚のスライドに観賞植物が撮影されていた。今回の調査では、パロ、ハ、ティンブー、オンディフォダン、プナカ、トンサ、ジャカール、ウラなどほとんどの集落で観賞植物は鉢植えなどで維持されており、ホテルと小学校などで顕著に確認できた。ブータンでは花博参加後に園芸植物の普及が始まったとされ（西岡里子私信）、観光開発にともなうホテル等での使用拡大と学校教育における園芸的活動の拡大によって休息に園芸植物観賞の庶民化が進んだと推定される。この庶民化には、高速道路の開通と空港の設置などインフラの整備にともなう近代化が大きく関わっていると推定される。1958年までは園芸活動は庶民には行き届いていなかったことは確実であり、ブータンでの園芸行為は最近の社会現象と結論できる。

	
<p>N58-11-20</p>	<p>N58-11-18</p>
	
<p>N81-095-13</p>	<p>2010年10月 山口撮影</p>